

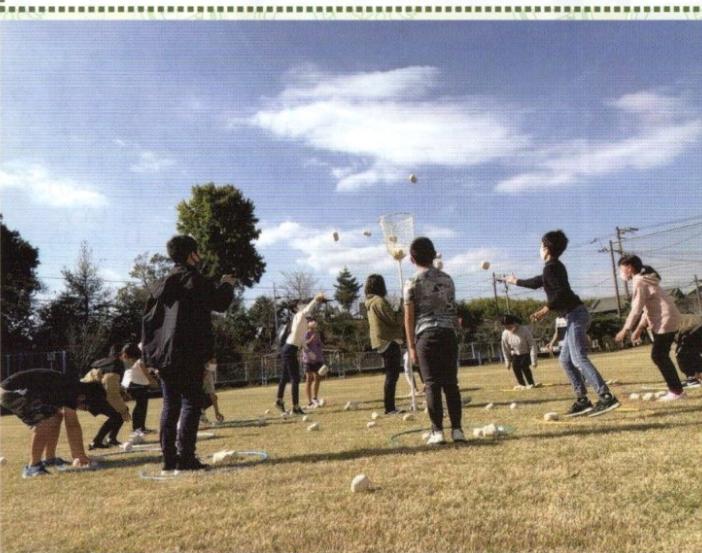
はばたき

63


題字／花園校区 6年 玉岡 愛望



子どもたちの笑顔のため、考えて実行した コロナ禍の子ども会活動



子どもたちは子ども同士の中でいろいろな経験をして心も体も成長し、また社会性も身に付けていきます。しかし今回のことでの手助けをしていくはずの子ども会活動が思うようにならない難しい状況です。

予想のできないコロナ禍の今は、感染防止対策に重きを置いて、ひとまず次に向かうステップの時ととらえて、いろいろな案を子どもたちと考えてみるのもいいと思います。

市子連でも、ホームページ等で情報を発信し、共にこの難局を乗り越えて行きたいと思っております。一緒に頑張りましょう。

市子連でも影響を受けて、予定していた行事が次々と中止になるなど、殆どの行事が開催できていないのが現状です。皆様の校区や単位子ども会で役員になられた方も、いろんな場面で決断を迫られたり悩んだりと、本当に苦労された一年であったことだと思います。

新型コロナウイルスの感染が年度当初より拡大しはじめ、現在もなおその勢いはますます増大しており、いつ収束するのかわからぬ先の見えない状況になっています。

市子連でも影響を受けて、予定していた行事が次々と中止になるなど、殆どの行事が開催できていないのが現状です。皆様の校区や単位子ども会で役員になられた方も、いろいろな場面で決断を迫られたり悩んだりと、本当に苦労された一年であったことだと思います。



子ども会と『コロナ』

高松市子ども会育成連絡協議会

会長 松本 学 武

防災キャンプ 【弦打】



僕たちの通っている弦打小学校では、コロナ禍のなかでも災害が起こつたらどうすればいいのか、というテーマのもと防災キャンプを行いました。受付では体温測定や消毒をして、二密を避けるために一人一人がそれぞれテントを張りました。簡単そうに見えるテントも実際に自分たちで設営するのはとても大変で、大人に手伝つてもらつてやつと完成しました。防災学習では地域の防災士が来てください、実際に津波や河川が氾らんしたら弦打校区がどうなるのかを学びました。僕の家は災害が起つたら逃げ場がなく沈んでしまうことも分かりました。助かるためにどうすればいいのか、事前にちゃんと家族で話し合うことが大切だといふ事も知りました。



漆原 亘
6年

私たちが通っている東植田小学校では、毎年子ども会主催で小学生、卒業生、保護者が集まって「逃走中」という催しが行われています。10月25日に行われた今年の「逃走中」は、例年と違つて三つのミッションがあり、達成するかしないかでハンターの数が変わつてくるというルールで、とも工夫されました。一つ目のミッションは玉入れとPKでした。玉入れではハンドボールに勝つたけれど、PKでは負けてしまい、5人もハンターが放出されて大変でした。

二つ目のミッションは、校長先生を救出することでした。運動場に隠されているカードを探し出し、集まつたカードを並べ替えて暗号を導き出しました。無事、どのチームも救出することができますよかったです。

三つ目のミッションはクイズです。最後の難問はなかなか解けなかつたけど、友だちと協力して何とか解けることができたのです。

防災学習の後は肝試しをしました。とてもドキドキしました。携帯電話は持ち込み禁止だった

ので友だちとテントの中で糸電話を使って話をしました。紙コップと糸で声が届くのがとても不思議で驚きましたが、新しい発見ができ楽しかったです。僕たちは修学旅行も日帰りだけだったので、みんなで夜に話したり泊まつたりでき、キャンプに参加して本当に良かつたです。

逃走中 【東植田】



私たちが通っている東植田小学校では、毎年子ども会主催で小学生、卒業生、保護者が集まって「逃走中」という催しが行われています。来年は卒業生のハンターとしてみんなで参加して盛り上げたいです。今年は卒業生のみんな仲がいいなと思います。

6年 阿部 健希
谷川 悠仁
ひかり

リーダーキャンプ 【十河】



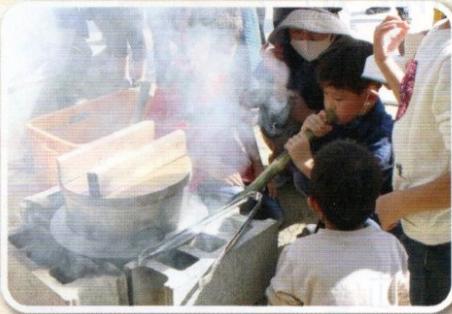
十河校区では、毎年恒例行事が中止となつてしまいましたが、夏の行事を延期し、コロナ対策を取り入れリーダーキャンプ防災講習を行つていま



夜には雨も上がり、6年間過ごした学校で花火をして、とても楽しめたデイキャンプになりました。今年もたくさんの方のご協力により無事終えることができました。

会と内容を変えてデイキャンプを行いました。あいにくの空模様でしたが子どもたちは元気に参加してくれました。キャンプの活動内容はみんなで調理することができないため、今回初めて取り入れた防災講習、救命講習レクリエーション、夏に友達と出来なかつた花火をして思い出作りがきました。

親子で農村体験 バスツアー 【円座】



11月1日(日)に三木町小蓑で、1年生から6年生までの親子50人が参加しました。稻の薪みがらをつかつた焼き芋や、しめ縄づくり、薪割りなどを体験しました。

濡らした新聞紙でさつまいもを包み、その上からアルミホイルで包み、もみ殻でじっくりと焼きました。できてのお芋は甘くホクホクで、自然と顔がほころびました。日本の伝統的なしめ縄づくり。親子で悪戦苦闘しながら、地元の方に教えていただき、飾りをつけて華やかに完成することが出来ました。

薪割り体験では、初めて持つ斧の重さに戸惑いながらも、力をこめて振り下ろします。割れると拍手がおこりました。かまどにその薪をくえ、竹筒で息をふきかけ火力を調節しながら炊いたご飯。

昔ながらの道具を使い、みんなで協力しながら炊いたご飯でにぎったおにぎりの美味しさは格別でした。地元の方々の温かなご指導のもと、手づくりの豊かさを感じ、農村にたくさんのかの笑顔があふれました。



8月8日(土)～9日(日)、石場会堂にて石場子ども会主催によるミニキャンプが行われました。子どもたちも大人たちも、とても楽しみにしていました。

初日の夕食はみんなが楽しみにしていたバーベキューでした。お肉をお腹いっぱい食べた後は、会堂の前でミニ花火大会を行いました。夏の花火は、夜空にキラキラと輝いても美しかったです。その後、会場の置の上で子どもも、大人も雑魚寝です。楽しい話や怖い話にドキドキワクワクしながらいつの間にかぐっすり夢の中へ・・・。

2日目。朝6時に起床し、それから地域の方と一緒にラジオ体操を行いました。朝ごはんは、地域の美味しいパン屋さん「松本ベーカリー」さんのパンです。みんなで並んで仲良く食べました。それから、昼食のカレー作りです。子どもたちが協力して野菜の皮をむいたり、包丁で切ったりしてくれました。みんなで作ったカレーは本当に美味しいです。この味はずっと忘れません。

子ども会 ミニキャンプ 【屋島東】



10月17日(土)、多肥小体育館で、桜の花びらと葉っぱに「コロナが鎮まつたらやりたいこと」を書いて貼っていました。最初は「壁に直接落書きする」という案から始まり、「それだとその場所に人が集まつて密になる」→「それが短冊に願いを書いて貼るのなら」→「多肥のシンボルの桜がいい!」と最終的にこのプロジェクトの形になりました。

子どもたちのコロナが鎮まつたらやりたいことは「遊園地に行きたい」「友だちと一緒に公園で遊びたい」など、とにかくおもいっきり遊びたいという願いが多く見られました。

11月1日(日)、手作りの除幕式を行いました。シートの桜並木と共に、子どもたちや地域の人たちに笑顔の花が咲いたようでした。

プロジェクトの企画から完成披露までの動画を、多肥小学校ホームページで見ることができます。

新しい未来への壁 プロジェクト 【多肥】



表

長年子ども会活動に貢献された方や団体に対して
表彰状や感謝状が授与されました。

彰

田中	潤（仏生山校区）
箸尾	拓也（仏生山校区）
奥村	由香（一宮 校区）
馬場	ヤス子（一宮 校区）
森	忍（一宮 校区）
野口	知告（太田南校区）

令和元年度 育成功労者感謝状

令和二年度 市子連功労者感謝状

鶴身 明美（市子連幹事）
県子ども会 優良子ども会 表彰
平井 昭実（市子連幹事）
山下 雅弘（市子連幹事）
県子ども会 表彰
仏生山校区子ども会
育成連絡協議会

令和二年度 香子連表彰

高松市ジュニア・リーダー



活動紹介

ジュニア・リーダーとは、子ども会などでゲームやクラフトで遊んだり、指導したりする愉快で頼もしい中学生や高校生のことです。

《お問い合わせ先》市子連事務局 ☎ 087-826-0118



8月30日 夏期研修会

今回コロナのため、各校区の色々な行事が中止となり、ジュニアたちの活動する場が少なくなりましたが、コロナ対策を守りながらの夏期研修を行いました。体の接触のないレクリエーションや頭を使ったゲーム等を学び、クラフト研修では竹を削って自分用のお箸を作りました。



10月17日 十河校区防災キャンプ

消防士による体育館でのAED講習や非常食の試食をしました。

ジュニアは新聞文字探しゲームやしっぽ取りゲームを十河校区の子どもたちと楽しみました。



12月20日 クリスマス会

例年、校区の子どもたちを募集していましたが、今年はジュニアのみで行いました。紙皿でクリスマスツリーを作った後、調理室でパフェを作りました。



数日前から雨の予報、しかし当日は心配した雨も降ることなく気温も登山に最適、気持ちいい登山スタートになりました。

大滝山県民いこいの森を出発し大滝山頂、西照神社を目指しました。途中、色づき始めた樹々を見て深まる秋の気配を感じ、子どもたちだけでなく大人も久しぶりの屋外での活動を楽しみました。

マイナスイオンたっぷりの空気を思いっきり吸って、頂上を目指します。疲れが見え足取りも重くなってきた頃「やつたーー」頂上が見えてきました。登頂後は、子どもたちから疲れたけどまた参加したい、楽しかったなどの感想が聞けました。

下山後、セカンドステージで市子連の池上副会長から「K

今年は新型コロナウイルスの影響で、市子連の様々な行事も中止になりました。

そんな中、屋外での活動でもあり感染状況や感染対策も考えて、11月7日(土)に「KYT登山」を実施することが出来まし



「シで市子連の池上副会長から「K-YT」(危険予知トレーニング)についての話を聞きました。自然のすばらしさ、みんなで活動する楽しさを感じた一日でした。